

## 児童ら自らが実際に避難路を歩き防災について学びました

◆平成28年8月の大雨により、音更町市街地を貫流する十勝川水系音更川では、既往最高の水位を記録しました。多くの児童が音更川の増水状況を経験した木野東小学校において、音更町の協力を得ながら防災教育を実施しました。

実施日：平成28年11月1日（火）

対象校：音更町立木野東小学校 第4学年（児童数125人：4班に分けて実施）

主催：音更町（総務部 情報・防災課）

協力機関：北海道地域（とかち）防災マスター、警察、北海道開発局 帯広開発建設部 治水課・帯広河川事務所

目的：洪水時の避難先である下音更中学校までのルートを確認し、非常時に備える。

児童が避難ルートを歩いたときに感じた危険な箇所など聞き取り、避難路の安全向上に努める。

実施内容：①音更町ハザードマップの目的・記載内容について、生徒との対話形式により説明。

②木野東小学校から、高台に位置する避難所である下音更中学校までの約2kmの避難ルートを実際に歩いて確認し、危険箇所を説明。

③避難ルートを歩いた後、各自の意見を共有するため、どのように感じたかを児童から発表。

「普段見慣れた風景でも、大雨時は危険な箇所が潜んでいること」を実際に避難路を歩きながら学びました。

